

海外留学 ——外国で学んだこと——

「留学」という名のもとに海外へ出かけて行く学生は年々増え続けており、本学においてもその例外ではない。こうした学生達のうち、留学の目的をしっかりと持って出かけて行く学生はそう多くはないであろう。なかには、大学での挫折から、行けばなんとかなるといった、安易な気持ちから留学する者、あるいは漫然とした目的意識で留学する者なども少なくない。したがって当然のことながら、留学先でのトラブルも年々増加しているのも事実である。このようなトラブルの多くは、目的意識がはっきりしない留学した者によって引き起こされているのもまた、事実である。そこで外国の大学などに留学するに際して、直面するであろういろいろな問題を指摘し、どのようにして解決したか、あるいはどうすればトラブルを起こさずに済むか、いろいろな角度から、日頃留学を志す学生の指導をしていただいている方々や経験者に解説していただくことにした。地球規模で国際化、国際協力が速いテンポで進みつつあるなかで、真のユニバーシティをめざす広島大学として避けて通ることのできないこの問題を、今期（22期）の特集として企画した。本号では、多くの経験者から、失敗や成功例を混じえて経験談をお寄せいただいた。

（広報委員会委員長 川上英之）

留学案内 ——フランスの場合——

社会科学部研究科学生 柳原智子

「フランスに留学したいと思っているんですが……」と見知らぬ方からお電話をいただくことが多い。一人一人にお会いして留学体験をお話ししたいと思っていたが、ごく少数の方達を除いてそれもかなわなかった。また、お会い出来た方達に対しても、自分がどれだけ客観的にまた体系的に情報を提供できたか怪しい。帰国後しばらくは、日本への「再適応」の期間でもあるため、フランスのマイナス面あるいはプラス面をとかくおおげさに表現しがちである。

そんな折、留学を希望していた友人の一人がフランスへと旅立った。「まだ住むとこ決まってないんですよ。ウフフ……」という微笑を残して。それにしても最近の学部生は頼もしい。気負いのないたくましさでも言おうか。私が学部生だった頃は、海外旅行や留

学は今ほど気安くは行けなかった。金銭的なことも含めて、外国はひどく遠いところであった。私の同級生の中に「一か月ほどインドでブラブラしてきたわ」なんて言う強者がいたが、そんなのは例外中の例外であった。ところが最近そんな「強者」達が増えてきている。円高によって海外旅行が安くなったこともあろうが、もっと重要なのは、外国の、特にヨーロッパ諸国の上層文化のみならず庶民の文化がマスコミによって紹介されるようになったからではないだろうか。真の意味での国際理解が深まり、外国が精神的に身近になったと言えよう。今では多くの人々が一人でリュック背負って「地球の歩き方」を頼りにどこへでも出掛けていってしまう。そんな好奇心旺盛な人たちの役に立てばと思い、留学生生活を冷静に振り返ることができるように



パリ大学（ソルボンヌ）

なった今、留学のためのマニュアル的なことを書いてみようと思う。

私が留学したのは、昭和60年から63年までの3年余り、留学先は、パリ第一大学歴史教育研究系修士課程、並びにパリ第四大学附属文明講座であった。一般に語学講座と言われるのが后者であるが、他にフランスの歴史・文学・哲学などの講義もある。日本の高校卒業証明書さえあれば入学資格が得られる。ここで断わっておかねばならないが、これは外国人向けの公開講座であり、ここに在籍しても正規の大学生としての身分を得ることは出来ない。したがって、より専門的な勉強をしたい人、資(史)料収集のため、大学の図書館を利用したいと思っている人は、大学に編入する必要がある。外国人向けの講座であるだけに授業料も一般の大学のそれに比べて随分高い。ちなみに1986-87年の場合、半期で3,550 Fであった(日本の大学に比べれば決して高くはないが)。語学講座は、さらに文法と発音の授業に分かれているが、両者とも優秀な講師陣が揃っているのので、内容は充分期待できる。講師は自分が作成したノートに従って体系的に授業を進めていく。そのため

あとからノートを見直すと一冊の文法書ができていることに気付く。発表や討論などもあり、語学は度胸ということを教えてくれる貴重な授業である。発音の授業は、最新設備を持つLL教室で行われ、子音・母音の発音から始めて、アクセント、リズムへと段階的に進められる。すなわち単語の発音から文章の発音へと移っていく訳である。歴史や文学の講義は、ソルボンヌ校舎のリジュリユール階段教室で行われる。日常会話とは違ったレベルのフランス語を聴き取る訓練をするのに最適であろう。フランス文明講座はこのくらいにして、一般の大学の仕組みについての説明に移る。

よく知られているように、年度がわりは10月であり、翌年5月まで通学した後は、4か月の長いバカンスに入る。パリ大学の場合、パリ第一大学～第十三大学に分かれているが、それぞれが単科大学だと思って差し支えない。ただし、複数の教育研究系(U.E.R=Unité d'Enseignement et de Recherche、従来の学部 faculté に代わるもの)を有している大学が多く、大学間で教育研究系が重複していることも珍しくない。大学の教育課程は以下の3段階に分かれている。

- (1) 第一期 (premier cycle) …通常2年間。一般教養を積みながら将来の進路を決める課程で、一般大学課程修了証(D.E.U.G=Diplôme d'études universitaires générales)の取得をもって修了する。
- (2) 第二期 (deuxième cycle) …通常2年間。専門分野についての知識を積む。一年間の学習で学士号(licence)、さらに一年で、論文を提出することにより修士号(maîtrise)を取得できる。
- (3) 第三期 (troisième cycle) …一年間で専門研究課程修了証(D.E.A=Diplôme d'études approfondies)を取得した後、論文の準備にとりかかる。学位論文(thèse)を提出し、公開審査(soutenance)をパスすれば博士号(doctorat)を取得できる。

日本人の学生がこれらの課程に編入する場合、学部にて在学している人は第一期に、学士号を持っている人は第二期の修士課程へ、修士号を持っている人は第三期のD.E.A課程へと編入できる。日本の学士号・修士号がフランスのそれらに相当すると見なされている訳である。

次に授業料であるが、教育の機会均等の精神が徹底しているせいか、驚くほど安い。ちなみに1987-88年の場合、年間510Fであった。日本円に換算すれば14,000円くらいであろうか。学生登録は一年ごとに行われる(日本の場合入学時のみであるが)。それは、大学本部への登録(inscription administrative)と教育研究系への登録(inscription pédagogique)の2段階に分かれており、どちらかを忘れてしまうと完全な登録とならないので注意しなければならない。

私の場合、第2期の修士課程に在籍していたが、2週間に一回の講義しかなかったので、語学講座にも出席していた。やはり外国人の学生の場合、一年目は大学の講義を聴き取るだけで精一杯で、ノートをとるような余裕はまったくない。語学力の向上のためにも並行して語学学校へ行くことをお勧めする。

フランスでの留学体験を今あらためてふり返ると、大学における指導もさることながら、最も自分を導いてくれたのは、指導教官も含めたあらゆる人々との出会いであった。誰とでも常に親密になれる訳ではないが、見知らぬ者同志でも気軽に言葉を交わせるのがフランスであり、出会いの機会も当然のことながら増えてくる。日本の場合、集団により個人のあり方が規定されるが、フランスはまったくその逆である。自分がいかに受動的な人間であるか、「生きる」ということをいかに軽く考えていたかということを感じた。フランス革命史研究を志す私にとって、対象とする地域の空気を五感で感じ取れた貴重な経験であった。パリに住んでいてこの地で革命が起こったことをなかなか感じ取れないでいたのだが、'86年の大規模な学生運動に遭遇して大いに想像力をかきたてられた。それは抗議であるとともに、「祭り」のようにも見えた。ある者は音楽にあわせて踊りながら、またある者は歌いながら行進していた。普段のとりすましたパリは豹変していたのである。今、目を閉じるとすぐにパリの街へ行くことができる。あらためて、私をはぐくんでくれたフランスに心からありがとうを言いたい。

西ドイツにおける店員と客の関係

——チュービンゲンのあるレストランで見た一件から——

文学部学生 高橋 完治

1988年の秋から翌年の夏にかけて、僕は西ドイツのチュービンゲン大学に留学した。留学中の冬は幸いに前年に引き続いて暖冬で、外出する際には、セーターの上に革ジャンをはおる程度でよかった。そんな暖冬のある日、ぶらりと出かけた折に教会の近くのレストランに入った。このレストランは数階建の建物の2階にあるのだが、建物の片側が坂道の中腹に面しているため、

坂道に立って見れば、レストランが1階にある格好になる。そして坂道に面した入口から店に入り、店内を横切って向かい側の窓辺に立って外を見ると、景色は2階から見えるそれだから、初めてこの店に入った客はいささか驚く。窓の下には市の立つ広場(Marktplatz)があり、休日には肉やハム、ソーセージ、野菜などの市で賑わう。広場を挟んで向かい側には市庁舎が立っている。日